

福島化学工業 株式会社

- ☒ 企業
☐ クリエイター
☐ 一般



原皮の仕入れからめし、染色、仕上げまでを一貫してできるのが大きな強みである福島化学工業。食肉の副産物として仕入れた原皮はサイズも品質もバラバラ。その原皮を熟練した職人が一枚一枚指先で確かめながら、日々職し作業を行っている。三好工場長は「指先が基本なので何でも触って確認します。作業時はできるだけ手袋をはめずに、指先の感覚を研ぎ澄ましていきます」と語る。

福島化学では、クリアーなホワイトの発色が美しいオルガノホワイトを開発。エコレザーであるうえに、インクジェットプリントの下の地としても人気が高い。傷や肌荒れが少ない原皮を選り分けるので、全体のうち一割程度しか取れない希少な素材だ。

「最近ではノックロム、ノンホルマリンの『オルガノII』も完成し、エンカルなもののづくりにこだわります」と福島伸行さんは話す。

最近ではブランド豚を飼育する養豚場から、「自社の豚皮をならめしてほしい」とのオファーが届いたという。

「その養豚場のオーナーは、とり

エコレザー「オルガノ」の技術力で、ブランド豚の皮革も製造

人と環境にやさしいものづくりにこだわったノックロム、ノンホルマリンのエコ素材「オルガノII」が好評。皮革では初の「JIS規格」抗菌防臭加工も行っています。



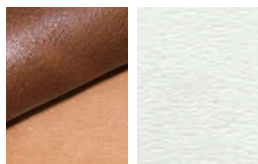
担当
福島 伸行

わけ旨味のある豚を努力を惜しまず育ててきた。地元では地産地消の一環で、その肉を「地産地消」豚として売りに出していますが、今回は肉だけでなく革までも一貫して活用し、地元のメーカーが縫製する、地産のバッグとして世に出すお手伝いをさせていただきました」と話す。

福島化学工業が持つ強みと、生産者とのタッグが実現したこと、サステイナブルを意識した、地域発信の新しいものづくりが生まれている。

現在はビッグレザーだけでなく、ホース（馬）やシブ至、デブ（鹿）など、様々な動物の革にチャレンジしている福島さん。「これから、一貫生産の強みと技術力を活かしたものづくりをしていきたい」と意気込みを語る。

Recommend



オイルアニリン タンニンなめし革をオイルで仕上げるさしを表現
 オルガノホワイト 人と環境に配慮したエコ素材

■オルガノIIの特徴■

日本エコレザー基準認定革 新 No.210003 旧 No.150060

1. 六価クロム及び七価クロムの使用はしていないので検出されません。
2. 焼却してもダイオキシン等の有害物質が発生しません。
3. ホルマリンも検出されません。
4. 白色で使用する場合は、無黄変です。
5. 染色性も良いです。下地が白いのので特にパステルカラーが綺麗に表現できます。
6. 人体に無害です。

福島化学工業 株式会社

〒131-0042
 東京都墨田区東墨田 3-9-17
 ☎ 03-3616-0010
 FAX.03-3616-0013
 ✉ akio@fukushima-kagaku.co.jp



地図

担当 福島 伸行

株式会社 ニシノレザー

- ☒ 企業
☐ クリエイター
☐ 一般



世界で評価される純白のビッグスキン

ニシノレザーを代表する素材が「純白のビッグスキン」。小さな子供や肌が弱い人が触れても安全なホルムアルデヒドが出ない、純白の革を作り上げた。

通常はクリーム色で固く仕上がるタンニン鞣しの革を純白でソフトに仕上げるために、オイルや薬剤の配合や温度管理などに何度も試行錯誤を重ねようやく完成させた。

また開発だけではなく、安定して量産するために、他の色と混ぜられないように「純白専用」のドラムや乾燥機も用意し、工程もしっかり管理している。

従来の革下地は薄い色がついているため、淡い色を染めると濁ってしまうことがあったが、この純白の下地は発色がよく繊細な色も染められる。パステルカラーのバリエーションが増え、ユーザーからの評価も高い。

また、革を乾燥する際の「板張り」という昔ながらの手法を守り続けるのは都内タンナーでは同社のみとなった。一枚一枚の革を板の上に張り、釘で固定。風が通り抜けるスペースでゆっくり時間をかけて乾燥させている。通常よりも素材の表面が平板になり品質が向

研究開発となめし・染色・仕上げ・後加工の一環工程により、天然素材である「革」の性質を活かした高品質な素材作りに取り組んでいます。



代表取締役
西野 佳伸

上するといふ。

その他にも生皮（きかわ）鞣し剤を使わないで仕上げる」と呼ばれる半透明の革や他社では扱っていない難しい注文の革も「から開発しています」。

ヨーロッパでは食文化の違いから豚革の生産が少なく、ビッグスキンは希少な高級皮革素材と認知されているといふ。

「日本の皮革業界ではビッグスキンという、シューズのライニング（靴の内側・裏張り）とよばれる部分「用素材」という固定概念を持っている人が多いのが残念でなりません。付加価値性が高く、存在感のある皮革素材をつくる認識を変えるきっかけになれば」と、お客様から求められる本場に良い革を作るため今日も現場で試行錯誤を続けている。

Recommend



エコレザーバリエーション 革の厚さや手触りの希望に応じた下地素材を作ります
 ベジタン#オリジナル 植物タンニンでフットとぬくもりのあるなめし。

株式会社 ニシノレザー

〒131-0042
 東京都墨田区東墨田 3-5-3
 ☎ 03-3616-4961
 FAX.03-3613-4602



地図

代表取締役 西野 佳伸

有限会社 日下部工業所

- ☒ 企業
☐ クリエイター
☐ 一般



水に強く、強度も高い
シャークスキン(鰐革)は
高級素材として人気です。
独特のシボ感と使い込む
ほどに艶が出るシャーク
スキンなら当社にお任せ
ください。



代表取締役
日下部 剛

Recommend



シャーク・ブラック
使い込むほどに艶が出ます。
高級感ある光沢



シャーク・モノトーン
表面の凹凸のシボ感を
生かした濃淡が美しい

有限会社 日下部工業所

〒329-440
栃木県栃木市大平町牛久659
☎ 0282-22-2354
FAX.0282-25-6354



代表取締役
日下部 剛

シャーク・スキンを
扱うタンナーです

石井製革所	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-18-7	03-3611-3237
石居みさお皮革	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-21-13	03-3616-8264
(株)エセカ	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-15-19	03-3613-8851
小川化学(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-15-15	03-3611-4907
(有)兼子皮革染色工場	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-14-25	03-3612-3710
(有)T.M.Y's	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-14-21	03-5630-8189
(有)ティグレ	272-0813	千葉県 市川市 中山 1-7-15	090-1658-4860
墨田革漣工業(株)	131-0041	東京都 墨田区 八広 4-43-4	03-3613-2131
(株)墨田キール	131-0041	東京都 墨田区 八広 4-9-2	03-3617-8551
墨田産業(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-5-18	03-3617-4411
(有)田丸製革所	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-6-5	03-3611-3062
長坂染革(株)	124-0006	東京都 葛飾区 堀切 1-34-8	03-3691-1161
栃木レザー	328-0033	栃木県 栃木市 城内町 2-1-4	028-224-0666
(株)ニシノレザー	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-5-3	03-3616-4961
福島化学工業(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-9-17	03-3616-0010
本田産業(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 2-16-1	03-3611-0205
本田皮革(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-12-1	03-3611-2992
まる幸商会	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 2-22-7	03-3611-1352
山口産業(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-11-10	03-3617-3868
山巴皮革染色(株)	131-0042	東京都 墨田区 東墨田 3-15-9	03-3616-2355
トウキョウレザーファクトリー	131-0046	東京都 墨田区 京島 1-8-8	03-6821-1960

ビッグスキン取り扱い業者リスト

山口産業 株式会社

- ☒ 企業
☒ クリエイター
☒ 一般(ネットショップ)



山口産業 株式会社

新社屋でワークショップやセミナーを開催。
ギャラリースペースもオープン

◆社屋のリノベーションが完成し、
ワークショップスペースも

コロナの間でも、ラセッターなめしの「やさしい革」を販売するオンラインショップ開設や、モンゴル産の「MONYREZER」のクラフトファンディングなど、様々なチャレンジを続けてきた山口産業。今年4月には本社のリノベーション工事が終了し、ホワイトを基調にした内装のモダンな社屋が完成しました。

1階には製品を陳列するギャラリーや、2階フロアには20名ほどが入れるワークショップスペースがオープン。このスペースを活用し、毎週木曜日は山口社長自ら講師となって、各種セミナーが無料で開催されています。

◆社屋についての各種セミナーが話題
たとえば、獣害産地の方向けには「今までは、獣害産地では、[MATTAGIプロジェクト]や「ハッピー・ビッグ・プロジェクト」など様々な課題解決型プロジェクトを立ち上げてきました。今回、そのプロセスで蓄積されたノウハウを、わかりやすく作り手や獣害産地の方に講座という形で伝え、またその参加者同士も繋がり合つてほしいという想いがあつたからです」と話す、社長の山口明宏さん。

◆社屋についての各種セミナーが話題
たとえば、獣害産地の方向けには

「獣革の利活用」の説明会。またメーカー・デザイナー・ブランド向けには「獣革の知識と活用の実践講座」といった具体的な内容がラインアップされています。

申し込まれる方々は、猟師、地域起こし協力隊、地方公務員の方など、目的意識の高い方が数多く集います。毎回10名程度と少人数制なため、作り手の方と利活用したい方との直接のマッチングに繋がります。

「この無料セミナーにはフリードリンクまでついていて、終始リラックスした雰囲気も人気の要因。このセミナーを認知されるにつれて、山口産業が掲げる「チャレンジ・フォー・ゼロ」(動物達のストレス、仕事のストレス、工場排水のクロムをゼロに)というミッションへの理解も深まっていると感じます。今後も「やさしい革」を通じ、知識や情報をワンストップで提供していきたい」と熱く語っていただきました。

本社リノベ工事が完了し、
ギャラリーやWSスペースを
オープン。自ら講師となって
各種セミナーを無料開催中。



代表取締役
山口 明宏

Recommend



Naturaカラーパレット Casein&WAXカラーパレット

どちらの革もなめし剤だけでなく、染色時も一切の金属系染料を使用しません

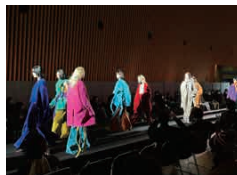
山口産業 株式会社

【山口産業株式会社】販売代理：一般社団法人やさしい革
〒131-0042 東京都墨田区東墨田 3-11-10
☎ 03-6661-8775 FAX.03-3613-3239
✉ info@yasashii-kawa.org
HP: <https://www.y-leather.jp/> (やさしい革のサイト)
WebShop: <https://www.y-leather.shop/>



代表取締役 山口 明宏

東京都および東京製革業産地振興協議会は東京都の特産品ピッグスキンを
アピールするための活動をしています。



◆ピッグスキン・ファッションショー

繊維総合見本市JFW-JAPAN CREATION内で、
ピッグスキファッションショーを開催。
東京の若手を代表するデザイナーと東京都内の
専修学校各種学校の生徒たちの作品が一同に集まります。
多様な加工技術を持つピッグスキンだからこそ、
作品のバリエーションに対応できるのです。



◆JFW-JAPAN CREATIONや 東京レザーフェアへの出展

繊維総合見本市JFW-JAPAN CREATIONや
皮革の総合展示会・東京レザーフェアに
東京の皮革「TOKYO LEATHER PIGSKIN」として出展
ファッション業界や皮革業界にアピールしています。
これらの展示会は、ものづくりをするクリエイターも来場可能。
新しい素材に出会うこともできます。



◆ピッグスキンのブランド開発

すみだのピッグスキン工場は、素材だけではなく、
製品を通じて革の魅力を知ってもらおうと独自の
商品開発を進めています。
製品を活かす革、革を活かす製品が生まれ、
いくつものブランドが世に出ています。



◆新素材の開発

皮革素材のプロ監修のもと、
各社の強みを活かしながら、
海外や国内のトレンドを加味して
新しい素材を開発しています。
ベースになる素材に、各種加工を組み合わせることで、
これまでにないオリジナル素材が開発されています。



◆ギフト・ショーへの出展

毎年、ピッグスキンを使ったブランドが、生活雑貨の
国際見本市である東京ギフト・ショーに出展しています。
東京にも革の産地があると知り驚かれる方もいます。
東京産のピッグスキンの魅力をお伝えし、
全国の小売店に販路を広げています。

TOKYO LEATHER PIGSKIN 2023

企画製作：株式会社ソーシャルデザイン研究所
design.T.rooms 徳永美子
協力：一般社団法人日本皮革産業連合会 吉村圭司
産業・教育資料室きわがわ 岩田明夫
東京都立皮革技術センター
デザイン：草間麻衣子

イラスト：進士通 P14,15,30,31
レポート：草間麻衣子 P8,9
取材：川崎智枝、鈴木清之（B.A.G Number）
撮影：馬杉真理子、増田義和
印刷：株式会社サンコー
2022年11月発行

皮革素材の試験や技術の相談は

東京都立皮革技術センター

東京都の伝統的地場産業である皮革関連産業の
技術向上を目的に開所され、皮革に関する研究、
試験、技術支援や相談などを行っています。
皮革全般に対応する皮革技術センター（墨田区）と、
靴やはきものが専門の台東支所があります。

〒131-0042
東京都墨田区東墨田3-3-14
☎ 03-3616-1671
FAX.03-3616-1676
<http://www.hikaku.metro.tokyo.jp/>



東京都立皮革技術センター

「研究」

豚皮の有効利用、ピッグスキンの
新規用途開発、革の特性、副産
物・廃棄物の有効利用などの研究
を中心に行っています。

「施設見学」

教育機関や企業・団体等の見学を
受入れています。見学時間1時間

「試験」

皮革原材料や製品等の各種試験を
行っています。引張強さ、伸び、
吸水性、耐水性などの物理試験や、
染色堅牢度、皮革の物性などの試
験をします。受託試験はご相談く
ださい。



「研修・講習会」

皮革製品等の品質向上・生産
工程の改善を図るための研修
や講習会を開催しています。

「展示室」

代表的な皮革のサンプル、多様な
ピッグスキン素材、ピッグスキン
を用いた製品が展示されています。



「技術相談」

皮革製造や皮革製品に関する諸問題に
ついて相談・助言を行っています。

「開放機器の貸出」

実験棟内に鞣製・染色・仕上げ用機
械等を設置し、皮革関連業界に開放
しています。新製品の開発や新技術
の習得など、試験室としてご利用い
ただけます。

■開放機器：ステンレス製ドラム（大
小・空打ち太鼓・真空乾燥機・パフ
イングマシン・ポリッシングマシン・
吹き付け塗装ブース・グレーディング
マシン・油圧式型押しプレス・ネッ
ト張り乾燥機・その他



